

I 自己評価

1 学校教育目標	開拓者精神（創造・挑戦・協同）を校訓とし、高い知性、豊かな情操、健康な心身とたくましく生きる力を持った人間を育成する。 （１）知育・徳育・体育の調和のとれた生徒を育成する。 （２）基礎的、基本的な知識と技能を身につけ、向上心があり、知性を備えた生徒を育成する。 （３）個性豊かで、自己を律するとともに、自他をかけがいのない存在として認識し、協調性のある生徒を育成する。 （４）心身ともに健康な体の基礎をつくり、生涯健康で健やかな生活が送れるようにする。
----------	---

2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導・（情報管理）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・生徒対象の学習指導に関するアンケートの「習熟度別授業や少人数授業が学習理解につながっている」の項目や、「授業の教え方や説明が分かりやすい」では、昨年より低くなっており、前期末に授業評価を行い後期の授業計画を改善し、授業を行った。今後も、授業力のさらなる向上を図りたい。また、保護者対象では「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」の評価も昨年度より低くなっており、年２回の生徒による授業評価アンケート等を授業改善に生かし、個々の能力に応じた指導に取り組み、学習理解につなげる。 （情報管理） ・業務上、個人情報を取り扱うことが多いのでデータ上のミスや情報の漏洩がないように、限定した担当者（複数）で取り扱い、細心の注意を払う必要がある。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇学力の向上：基礎的・基本的な知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育てる。 （情報管理） ◇校務の情報化を推進するとともに、データ取り扱い時の複数でのセキュリティチェックを行い事故防止に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・新入生には初期指導、学校全体で習熟度クラスの編成などにより、個々の力に対応した授業の推進 （情報管理） ・県の成績管理システムの有効利用と複数でのデータチェック ・セキュリティチェックシートによる、情報セキュリティ意識の向上	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
（１）授業改善、教科指導力の向上 ・習熟度別授業の実施 ・生徒による授業評価の実施と分析により指導計画の変更と見直し実践を行う。 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施する。 （２）学習指導の充実 ・授業を大切にして、家庭学習の定着を図る学習指導体制の推進 ・朝読書・学習の実践 （情報管理） （３）情報セキュリティ意識の向上により、セキュリティ事故が発生しないか、発生した際には、適切な対応が取れる。	（１）授業改善、教科指導力の向上 ・生徒による授業評価の実施・分析により、授業改善に役立てることができたか。 ・教職員の資質や指導力向上のため、授業研究・校内研修を組織的・計画的に実施できたか。 （２）学習指導の充実 ・各分掌、教科、学年と連携し、学校全体で学力向上を図る体制づくりを行えたか。 （情報管理） （３）成績管理システムの運営は複数で行い、ミスがないようにする。 生徒の個人情報についての入力、教科担任や担任の協力を得て、確実にやってもらう。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
① 授業改善、教科指導力の向上	① 分掌、教科、学年と連携し、学校全体で授業改善を行えたか。また生徒による授業評価、授業研究・校内研修が授業改善に役立てられたか。	A (B) C D
・生徒による授業評価を１科目以上行い、実施結果を教科会で確認・分析し授業改善と授業計画の変更役に役立てた。 ・授業公開と研究授業の推進 ・学校生活に関するアンケートの実施・分析	② シラバスにおいて「学ぶ力・身	A (B) C D

② 学習指導の充実 ・シラバスを活用した、年度当初のオリエンテーション（初期指導）を行った。 ③ 朝読書（朝学習） ・毎朝のホームルームの時間に朝読書とテスト前には朝学習を行った。 （情報管理） ④ セキュリティチェックを利用して全職員の情報セキュリティ意識をたかめ、複数でのデータチェックを行い業務に反映させる実践。	に付ける力」や「評価」を明記し、説明できたか。 ③ 毎朝、朝読書（朝学習）を行うことで、確かな読解力が身に付き、学力向上に繋がったか。 （情報管理） ④ 職員の情報セキュリティ意識を向上させ、複数でのデータチェックを行いミスが発生しない。	A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題 ○習熟度別授業により、授業内容を実態に合わせることで、学力の定着につながり始めた。 ○生徒による授業評価を行い、授業改善のために役立てることができた。 ▲初期指導の段階から、全ての教科においてもベースとなる基礎力の定着を考え、学び直しなど個々に応じた学習指導の推進を図る必要がある。 ▲1年生は高校生活に慣れるため、日常生活面での面談指導を多く取り入れ、全学年とも長期休み明けなども面談等を行い、生活面で配慮する必要がある。 （情報管理） ▲セキュリティ意識を常に高く持ち続けることが常時の課題。 ○複数で確認しながら、教科担任や担任を通じて、しっかりチェックしてもらう体制（マニュアル）を作り、ミス防止の意識を高めてきた。		総 合 評 価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 （1）基礎力の確実な定着のため、学び直しなど個々に応じた対応を充実させる。 （2）生徒による授業評価の実施・分析し授業計画を見直し実践し授業改善を図る。 （3）ICTの利用などで、生徒が自ら学ぶ授業になるよう授業形態（能動的学習の構築）、授業内容を工夫・改善する。 （情報管理） ・情報管理にあたる業務は複数であたり、チェックを確実に実践する。 ・情報管理の専門的な業務においては、図書情報部と協力し、研修などで人材を増やす。		

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月4日

【意見・要望・評価等】 ・授業改善の意識がアンケートにみられている点が評価できる。 ・授業アンケートの結果を受けての授業改善で、何がどう伸びたのか、成果にどうつながっているのかなど、実績についての分析につながると良い。 ・学習の仕組み（サイクル）で「予習」の必要性をしっかりと伝えることが大切であり、それが自ら参加し取り組める授業への改善につながる方策となる。

2	評価する領域・分野	◇ 生徒指導	
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・大半の生徒は、学習や部活動、生徒会行事等に熱心に取り組み、ルールを遵守し、規律ある生活ができている。 ・モラルやマナー指導や身だしなみ指導に関しては高い評価を得ているが、いじめや差別に対する指導、体罰防止に関しては一層の努力が期待されている。	
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	① 集団生活における基本的生活習慣を身につけさせる。 ② 自他の生命を尊重し、危険を未然に防ぐ能力を育てる。 ③ 規範意識を育み、ルールやマナーを守る生徒を育成する。 ④ 全職員の共通理解のもと生徒指導体制の組織化を強化する。	
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	職員、保護者、関係諸機関の連携を積極的に行い、生徒指導体制を強化する。また、学年会と連携して個々の生徒の生活指導にあたる。	
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標
(1) 身だしなみ指導や遅刻防止指導などを通して、規律ある生活態度を定着させ、基本的生活習慣の確立を目指す。また、地道な呼びかけをするなど、日常的に生徒指導を行う。 (2) 交通安全指導を通して、安全で安心できる生活のための啓発活動を行う。 (3) 諸問題に対して危機意識を持たせ、問題行動や被害の未然防止に努める。ルールやマナーの遵守を呼びかける。		(1) 遅刻者の状況や身だしなみ指導の結果から、望ましい生活習慣の達成度を確認する。学年会と連携して、呼びかけや日常的に生徒指導ができているかを確認する。 (2) 登下校時の交通事故や校内での生徒の様子から生活状況を観察する。 (3) 落とし物や紛失物の数の結果から貴重品管理や記名などの達成度を確認する。生徒の様子から遵守状況を観察する。	
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点
(1) ①生徒個々の遅刻回数の記録と個別指導。 ②定期的に一齐身だしなみ指導を実施。 ③身だしなみ確認カードで日常的に指導。 (2) ①登下校指導、自転車点検、交通安全講話 薬物乱用防止講座などを実施する。 ②掲示用プリントや全校集会で不審者や迷惑行為、盗難などの情報を伝え、安心できる環境づくりを呼びかける。 (3) クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でルール・マナー遵守を啓発する。		(1) 遅刻の減少や身だしなみの改善がみられたか。 (2) 交通事故や迷惑行為が減少したか。適切な対応がなされたか。 (3) 安心して学ぶ環境作りに取り組むことができたか。 (4) ルールやマナーの遵守について機会を捉えて適切に指導できたか。	10 評価 A (B) C D A B (C) D A (B) C D A (B) C D
11	成果・課題	総合評価 A (B) C D	
<成果> ○遅刻指導によって常習的な遅刻者及び全体数は減少した。 ○アルバイトの基準・運用の見直し（特別な事情以外禁止）によりアルバイトをする雰囲気なくなってきた。（特に1、2年生） ○送迎車の校内乗り入れ禁止により、危険度が大幅に減少した。 ○不審者等の情報がすぐに生徒に伝えることで注意を促すことができた。 ○問題行動が起きたときの生徒指導部での迅速な対応ができた。 <課題> ●遅刻の数が学年によって差が大きい。（遅刻者の全体数は昨年度より減少） ●前半、自転車に対するいたずら（パンク、スポークを切る等）が多く、その他の迷惑行為（嫌がらせ、壁を壊すなど）も複数回発生した。 ●交通事故は自損事故を含めて1月までに35件。（昨年度1月時点21件） ●保護者の送迎の車の正門、東門付近での乗降が雨天の際に特に目立つ。 ●身だしなみ（特に女子のスカート違反）がまだまだ改善されていない。 ●自転車の運転マナーがやや悪化している。（右側通行や並列進行等） ●学年団・担任と生徒指導部の共通理解がまだまだ不足している。			
12	来年度に向けての改善方策案		
(1) 迷惑行為をなくすために巡回を徹底させる。（自転車置き場等） (2) 貴重品ボックスの適切な使用法について指導し、生徒の自己管理能力を向上させる。 (3) 女子のスカート丈の基準の改定を含めてその方法と基準を検討する。（身だしなみ確認カード） (4) 身だしなみや制服の着こなしについて、日常のこまめな全職員による指導体制を構築する。 (5) 心を育てる教育のために月1回の講話（講師は企画委員等）の実施を提案する。 (6) 問題行動が起きたときの対応について、誰もが初期指導できる体制を作る。（生徒指導力の向上） (7) 全校体制で予鈴前に教室に入る指導を行うことを提案する。（チャイムの鳴り始めて遅刻とした） (8) 保護者ともよく話をし、気になることがあれば、職員に相談や報告をして「チーム」で対応する。			
学校関係者評価 令和2年2月4日			
・校則の改正など難しい問題もあるが、教員間の情報共有がなされており、指導の連携が図られている。 ・高校生の間に、交通マナーも含めた社会生活への適応力を身につけられるような指導をお願いしたい。			

2	評価する領域・分野	◇ 進路指導		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者が必要とする情報提供に関しても、進路希望に添った適切な指導に関しても約7割の肯定的評価をいただいている。 ・生徒も6割以上が肯定的な評価をしており、一定の理解を得ていると考えられる。しかし、2・3年次で行っている総合的な学習では有意義であるという肯定的な評価が4割強であり、より進路学習に直結できるように考えていきたい。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の発達段階に応じた情報提供やキャリア教育を推進し、高校卒業後も見通した「生きる力」を身に付けるための指導を充実する。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部を中心とし、進路指導部内の各学年担当がイニシアチブをとり、各学年団と連携する。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 学力補習を強化した多様化する入試制度への対応 (2) 生徒一人一人の進路の実現に向けたガイダンス・講演会		(1) 生徒のニーズに応える授業+αの取り組みとして各補習授業が実施され、受験に対応できる学力が育成されているか。 (2) 「総合的な学習の時間」を利用し、進路目標実現に向けて進路意識が高まり、進路決定に寄与するものとなっているか。		
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
・全職員による小論文、面接の個別指導 ・保護者向け進路説明会の実施 ・1年：職業観・勤労観の育成 キャリアガイダンス、大学模擬講義、インターンシップ(4社18人)、企業見学、放課後、土曜、長期休業中補習、上位者指導 ・2年：進路目標の設定 オープンキャンパスへの参加、大学模擬講義、小論文指導、放課後、土曜、長期休業中補習、上位者指導 ・3年：進路目標の実現 大学見学、受験ガイダンス、講演会、小論文指導、面接指導、センター試験受験生向け特別補習、放課後、土曜、長期休業中補習		① 進路ガイダンスが「総合的な学習の時間」を活用して、進路意識の高揚を図り、3年間を見通した段階的な支援となっているか。	A	Ⓑ C D
		② 生徒が意欲的に進路関係の行事に取り組み、自己実現の達成を目指して、入試等で努力できる支援となっているか。	A	Ⓑ C D
		③ 受験・就職に対応できる学力・能力が身に付いているか。	A	Ⓑ C D
11	成果・課題	○センター試験志願者数は70%である。最後まで学力を付け努力させる指導は行いつつ、多様な進路に対応している。 ○進路講演会・キャリアガイダンス・模擬講義が生徒の進路選択に役立った。 ○学年団と協力し、補習以外に上位者指導を設け、学年の核となる人材を育成し、一般入試に堪えられる学力を付ける指導ができた。 ○模試を受験するにあたり、各教科で過去問を扱い対策をとるなど学力をつける努力を共有しながら行うことが出来た。 ▲他校でも推薦・AOの出願が増え、定員の厳格化もありなかなか合格がとれない大学も増えてきた。より一層学力をつけ、早くからの小論文や面接の指導が大切である。		
12	来年度に向けての改善方策案 ・自立した学習者、リーダーを育てるための指導の一環として、1・2年次の上位者指導を徹底する。 ・確かな学力の養成のため、1年次から補習を開講し、生徒一人ひとりが第一志望の進路を実現できるようにする。 ・進路実現のための教職員間の協力体制を強固なものとし、生徒や保護者が相談できる環境をさらに整える。 ・センター試験全員受験をめざし、進学先で躓かぬよう、授業第一に最後まで学ぶ姿勢を貫かせる。 ・外部の教育力を精選して活用し、インターンシップを始め、市の協力を得て企業見学を取り入れる等、キャリア教育を充実させる。 ・保護者向け進路説明会を開催し、三位一体で受験生を育てていく。 ・入試制度の変更に伴い、よりアンテナを高くして情報をキャッチし、提供していく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月 4日

【意見・要望・評価等】

- ・PTA総会で、進路の話をして保護者の理解や意識づけにしてほしい。
- ・学生時代に身に付けた基礎学力が大切だということを認識させてほしい。

2 評価する領域・分野	◇特別活動 学校行事の企画運営、部活動の振興、ボランティア活動		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「本校では、部活動が活発に行われている。」という問いに生徒、保護者の約9割に肯定的な回答をいただいた。 ・高校見学会のアンケートに対し、中学生、保護者の多くの皆様に生徒会が中心となってプレゼンテーションを行い、学校の様子がよく分かったと90%に近い肯定的な回答をいただいた。		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 生徒会執行部は、様々な学校行事の企画運営に主体的、組織的に取り組み、事後アンケートを実施し、より良い運営に努める。 2 部活動の活性化のために必要な方策を探り、実績広報活動に努める。 3 学校祭・球技大会等の学校行事に全校生徒で取り組み、学校への帰属意識を高める。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部と生徒会各委員会顧問（関係の分掌）、部顧問、学年会との協力体制。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒会主体の学校行事の充実 (2) 学校行事・部活の実績の広報活動の充実	(1) 学校見学会の際、中学生・保護者対象アンケート実施。その他行事アンケート実施。 (2) HPや校門前の掲示板的の有効利用。		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
・学校見学会で、生徒会主体による学校説明と、学校案内。アンケート実施。 ・HPで学校行事の紹介、部活動の実績などのPR。 ・すべての学校行事に、全校生徒・全職員で取り組み感動を共有する。アンケート実施。 ・野球部への学校応援 ・バドミントン同好会が部活動へ昇格	①PPTを利用した生徒のプレゼンテーションは分かりやすく行えたか。 ②本校の行事や部活動に対して興味関心を持ってもらえたか。 ③様々な学校行事や、部活動の取り組みにより学校への帰属意識を高めることができたか。	(A) B C D A (B) C D (A) B C D	
11 成果・課題	○サッカー部が第98回全国高校サッカー選手権大会岐阜県予選において準優勝し、多くの生徒、保護者、地域の方々から応援を頂いた。 ・吹奏楽部が全国大会出場を果たした。 ・水泳部・ラグビー部・弓道部が東海大会出場を果たした。 ○文化祭・体育祭・球技大会などの学校行事は生徒会を中心に生徒主体の運営が出来た。 ○生徒会役員（ゼロスマカフェ）や吹奏楽部、放送部、美術部、書道部、剣道部、サッカー部（中央ライフデザインセンターでの文化発表会）が地域のボランティア活動に積極的に参加し、大変助かっているという評価をいただいている。ラグビー部・サッカー部が地域の子供たちの為にリスペクトクラブをおこなっている。		総合評価 A (B) C D
12 来年度に向けての改善方策案 ・行事の精選により、体育祭が球技大会と同日となったので、体育的行事として生徒会・体育委員会を中心に考えていく。			

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月4日

【意見・要望・評価等】 ・本校OBには、部活動などで頑張った人が沢山いる。こういう方々を同総会などが呼んで、話をしてもらう機会があると生徒の為になるのではないかと。 ・今後も、部活動などに力を入れていってほしい。

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生（保健管理・安全管理）	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・地震や台風などの自然災害に対する対策マニュアルについては、生徒は8割、保護者は9割近くが理解している。 ・「清掃が行き届いていて、学校がきれいである」と考える生徒は5割をきっている。更なる清掃の意識向上を図る必要があると思われる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	（１）保健管理の充実と保健指導の推進 （２）環境整備の徹底とマナー指導の徹底 （３）安全な施設設備の維持管理と防災意識の向上	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	保健厚生部の中で保健・環境・防災・厚生の４つの分野に担当を分担した。近年、防災に関する事業が増加傾向にある。担当の割り振り方にも考慮して、各分野との連携を行ない 行事には全員であたる。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 協力を得て速やかな健康診断の実施と事後指導を実施する。 (2) 感染症予防・感染拡大阻止に向けて全校体制で取り組み、周知徹底を図る。 (3) 委員会活動を通して、資源ゴミの分別を徹底し環境美化への意識やマナーの向上を図る。 (4) 生徒・職員による定期安全点検を実施 (5) 月１回の全員掃除を実施する。 (6) 防災計画に基づいて年３回命を守る訓練を実施し、防災リーダーを養成する。また 危機管理の指導・防災意識の向上に努める。	(1) 検診結果を分析。受診率の向上を確認 (2) うがい・手洗いなど自主的な感染症予防策を実施し、継続的な指導により定着させる。 (3) 委員会活動による掃除のチェックとゴミ回収所の分別状況の把握を実施し徹底する (4) 複数の目で安全を確認し、常に事故を予測する力をつける。 (5) 生徒・職員の清掃の意識を高める。 (6) 命を守る訓練での状況を把握・分析し、消防署員など専門関係者の講評や助言を受け、防災意識の向上に努める。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 各種健康診断や環境衛生の検査を実施。	(1) 事後指導等を徹底できたか	☒ A B C D
(2) 欠席状況調査で、生徒の健康状態や感染症等の流行状況を早期に把握し、予防策を講じた。また、危機管理意識を高める啓発活動や保健指導を継続的に実施。	(2) 感染症拡大防止に全校体制で取り組めたか。また生徒の危機管理意識を高めることはできたか。	A ☒ B C D
(3) 厚生委員会による分別の徹底を呼びかけ、回収場所には立ち番を付けて指導・監視をした。また、日頃の掃除チェック等を行った。	(3) 委員会活動を通じて、生徒の環境美化の意識が高まったか。	☒ A B C D
(4) 年２回、委員会と職員による校内安全点検を実施した。	(4) 施設設備の安全な維持管理に組織的に取り組み、未然に事故を防ぐ力と安全意識を高めたか。	A ☒ B C D
(5) 月１回の全員掃除。	(5) 清掃・整頓に対する意識が向上したか。	☒ A B C D
(6) 消防署の協力のもと、緊急地震速報発令を想定した命を守る訓練を年３回実施。	(6) 訓練・講話により、緊急時の対応力と意識が向上したか。	☒ A B C D

11 成 果 ・ 課 題	○各種の健康診断や衛生検査は、職員の協力でスムーズに実施できた。事後指導及び措置もHR担任の協力を得て、措置完了者も順調に増えてきている。 ○保健委員会・厚生委員会の生徒は、保健管理や環境衛生に対する意識の高い生徒が多く積極的に活動することができた。更に委員会活動が活発化するように、指導していきたい。 ○環境美化においては、職員室や準備室の清掃 また職員トイレは教職員にお願いし、複数の掃除場所の監督にならないよう配慮し配置した。また 月に1回の全員掃除の日を設け清掃や整頓に対する意識が高まった。	総 合 評 価 A (B) C D
12	来年度に向けての改善方策案 健康管理や掃除、毎日のことなので常日頃から気を配り活動を継続する。また異常気象でいつ何時災害が身の周りに起きないとは限らず 常日頃から危機意識や防災意識をもつように継続して指導していく。今年度 危機管理マニュアルの見直し・改定をすることができた（現在も作成中）。保健厚生部の行事には、今年度同様全員で取り組んでいきたい。また生徒ができる部分については、一緒に活動していきたい。	

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月4日

・引き続き、安全教育に取り組んでいただきたい。

I 自己評価

2	評価する領域・分野	図書・情報 ◇ 読書指導・情報機器整備・情報教育		
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・読書に興味を持つ生徒が比較的多い。 ・ほとんどすべての生徒がスマートフォンを持ち、SNS、LINE、メールなどで利用する時間が比較的多い。		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 (1) 読書指導を推進し、図書館内の環境整備に努める。 (2) 図書館や視聴覚教室での、LHR、総合的な学習の時間、各教科の授業を支援する。 2 (1) 情報機器の整備及び校内ネットワーク・学校HPの充実を図る。 (2) 情報リテラシー教育ならびに情報機器を使用したICT教育の推進をはかる。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館の効果的な利用について、職員・図書委員会と連携をとって生徒に働きかける。 ・情報リテラシー教育について、LHRや集会などの場や、情報の授業などで効果的に行う。 ・プロジェクターやタブレットの使い方について、授業に活用できるような研修を企画する。		
6	目標の達成に必要な具体的な取組	7	達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書館を利用しやすいように整備・充実し貸し出しはもちろんのこと、読書週間・図書館イベントなどを利用したの啓蒙活動、及び授業での利用を促進する。 (2) 情報リテラシーの教育、またインターネット上のルールやマナーの遵守を呼びかける。 (3) プロジェクターやタブレットの整備に伴い効果的に利用ができるよう支援する。		(1) 貸し出し統計や読書アンケート、希望図書アンケートなどの結果を鑑みて、貸し出しの増加を確認する。 (2) アンケートやLHRで情報リテラシーやインターネットの利用状況を確認する。 (3) 全職員が、プロジェクターや電子ペン、タブレットを用いた授業をすることができる。		
8	取組状況・実践内容等	9	評価視点	10 評価
(1) ①図書選定委員会を通じた図書の充実。 ②利用しやすい図書館内の整備。 ③職員・生徒アンケートを利用した希望図書の調査。 (2) ①情報リテラシーについて、クラス掲示用プリントなどを配付し、全校集会や学年集会でインターネット上のルール・マナー遵守を啓発する。 ②情報アンケートの実施。 (3) プロジェクターや電子ペン、タブレットに使用についての研修(外部・内部)		(1) 昨年度より図書館利用の増加や貸し出し冊数の増加は見られたか。 (2) 情報リテラシー教育についての教員の共有、生徒への徹底を図ることができた。 (3) 全職員が情報機器を使用して授業をすることができた。		A B C D A B C D A B C D
11	成果・課題	総合評価 A B C D		
12 来年度に向けての改善方策案 (1) 高校生に読ませたい・読みたい本の調査も含め、図書委員を含め蔵書のありかたを考える。 (2) 校内情報リテラシー教育体制を現状に即して、より強固な形で確立する。 (3) 情報機器を使った授業実践交流などを行い、利用について研修を深める。				

総 合 評 価

A **B** C D

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月4日

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・図書貸し出しの減少について…原因を分析して、来年度に向けて授業利用などの取り組みを行うべきである。・情報モラル教育・情報機器の利用について…校内研修や生徒向け講演会などを利用してさらなる理解を深めるべきである。 |
|---|

2	評価する領域・分野	◇ 教育相談				
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「悩みや相談に親切に対応してくれる」では生徒の60%弱が肯定的で25%がわからないと回答している。 ・「教育相談係は個々の生徒に適切な指導を行っている」では、保護者の65%が肯定的で、25%がわからないと回答している。 ・「保護者の悩みや相談に適切に対応している」では、保護者の60%弱が肯定的で、25%がわからないと回答している。 ・個人情報の問題があり該当者以外は知る機会はないと考えられる。				
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 問題を抱えた生徒に対する早期対応を目指し、生命を尊重し豊かな人間性と望ましい人間関係の確立を促すための、連携を密にした相談活動を展開する。 (2) 各種検査、「日常生活に関するアンケート」を実施し、自立や自己実現の援助ができる活用を促す。 (3) 特別な支援を必要とする生徒の教育的ニーズに応じて研修会を開き、組織的に対応する。				
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	・保健室、学年会と有機的な連携をとり、情報交換会において名前の挙がる生徒について、管理職、部長を交え組織的に方策を練り、担任を支援する体制。				
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標			
(1) 学校生活への適応のため特に1年生に対しては、中学校との情報交換も交え観察しながら援助を進めていく。校内、家庭、外部機関との連携を密にする。 (2) 各種検査、アンケートを実施し、生徒の自己理解を促すと共に職員の生徒理解に役立てる。 (3) 特別支援教育の企画運営を行い研修会を開催し、適切な支援のあり方を実践する。			(1) 常に最新の情報を共有し、連携を取り、生徒を援助しているか。 (2) 各種検査やアンケート結果をもとに、生徒理解がなされ喫緊の問題に対応できているか。 (3) 研修会が実りあるものとなり、特別支援が必要な生徒に、適切に支援できたか。			
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価		
・1年生の初期指導としての構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開き ・年9回のスクールカウンセラーの活用事業の計画と、援助を必要とする生徒及び保護者の支援 ・教育相談便り（相談室紹介、SC日程、教育実習生のお悩み克服談等）による情操の涵養 ・学年会、情報交換会等における問題を抱える生徒の情報収集と迅速な対応 ・「クレペリン検査」「i-check」「日常生活に関するアンケート」の実施による生徒理解や問題の把握 ・本校SCによる「行動問題を考える」研修会			①問題を抱えた生徒に対して、適切な支援ができたか。 ②担任や、学年会と連絡が密にできたか。 ③各種検査やアンケート分析結果が生徒理解に資するものとなったか。 ④特別支援教育が必要な生徒の情報収集及び支援ができたか。	A (B) C D (A) B C D A (B) C D (A) B C D		
11	成果・課題	○1年生の初期指導として、構成的グループエンカウターの手法を用いたクラス開きを行い、好評であった。 ○校内及び家庭との連携を図り、状況を分析しつつ機会や役割を考え組織的な援助を実践することができた。また、保護者からの相談に対して担任と共に面談をし、継続的な相談に応じた。 ○「日常生活に関するアンケート」を年5回実施し、担任とともに生徒の問題を迅速に把握し対応できた。また、「クレペリン検査」においては、専門家によるデータ分析結果の説明会を開催した。 ○生徒の抱える問題について随時ケース会議、教科担任会議で共通理解を図り支援に繋げた。 ▲「教育相談便り」の発行回数は増えたが、情操の涵養という面では不十分であった。 ○SCによる職員研修会では、生徒の行動問題を捉える視点や、不調に関係する神経系の働きについて研修した。			総合評価 A (B) C D	
12	来年度に向けての改善方策案 ・相談室登校、不登校問題に対処するため外部機関との連携を強め、ネットワーク作りも意図して進める。 ・個人差が多く多様な生徒のニーズに応えられるように、引き続き教員の資質向上及び共通理解を図る。 ・相談室に毎時間教員が常駐いつでも対応できるとよい。 ・迅速な対応、専門機関への受診など専門家のSCによるカウンセリング相談の日数が増えるとうい。					

II 学校関係者評価

実施年月日：令和 2年 2月 4日

【意見・要望・評価等】
 ・人間関係で悩む原因の一つにスマホやネットへの依存があると思われる。企業によっては社内教育としてスマホ等の話をしているところもある。こうした依存症に対して対策を考えてほしい。

2	評価する領域・分野	◇渉外 保護者、地域住民などとの連携 情報提供			
3	現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・保護者対象アンケート P T A活動の公表については80%以上の保護者が肯定。家庭と学校の連携については70%を超える肯定の回答があった。			
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	1 (1) 効果的な広報活動を計画・実行 (2) H P の内容の充実 2 各種P T A行事の内容の改善をはかり参加者を増やす。 3 同窓会総会等の抜本的な見直しをはかる。			
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	教務部、特別活動部を中心とした各分掌との緊密な連携			
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) P T Aだよりの充実。 (2) P T A総会・挨拶運動・新生祭参加形態・校外研修会・P T A研修会の充実・改善。		(1) 記事の見直しと多様化。 (2) P T A総会や各種行事の出席者数の増加。各行事後のアンケートにより参加者の満足度数が高まること。			
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評 価	
1	積極的な広報活動 (1) 効果的な広報活動		・P T Aだより・年間行事予定表 ・P T A総会の出席者は179名。出席率は20.8%であった。 H30より20名減 ・生徒、保護者、職員が参加 ・愛情たっぷりのカレー800食の売上げ ・50名の参加 ・240名の参加 ・40名の保護者が参加 ・役員全員で協力して発表し好評を得た	(A) B C D	
2	各種P T A行事 (1) P T A総会 事前資料の配布 参加率アップ (2) あいさつ運動 年5回(正門、東門) (3) カレーバザー (4) 校外研修 中京大・愛知学院大の見学 進路と連携 (5) 学校・地域をきれいにする日 (6) P T A研修会 保護者向け進路研修会			A (B) C D	
3	校外活動 高P連 東海大会、県PTフォーラム発表			(A) B C D	
11	成果・課題 ○P T A行事・・総会出席者数を増やすことが課題。概ねP T Aの行事は軌道に乗っている。 ○広報・・各務原高校の魅力を伝えるとともに、さらなる志願者数の増加につながる効果的な活動を積極的に行う。 ○同窓会・・50周年に向けて具体的に動きを作る。			総合評価 A (B) C D	
12	校外研修(大学見学)やカレーバザーなど、参加者増加や、活動が活発になったものもあったが、総会や進路研修会などの参加者は増加していない。さらなる内容の荷直しが必要である。また、50周年記念行事への動きを良い機会として中学校・地域・同窓会との連携をはかっていきたい。				

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年2月4日

【意見・要望・評価等】
・PTA総会をさらに魅力あるものにするため、関心の高い「新テスト」や、「学費・奨学金」などをテーマに進路講演会を企画する。